

保育計画成果報告書

法人名等	一般社団法人 育愛会
施設名	はぐくみ保育園
報告者（役職）	岡 亜沙美（園長）
連絡先	神奈川県川崎市川崎区日進町 29 番地
	☎ 044-387-3496
	E-mail kawasaki@hagukumihoikuen.com

○タイトル（保育計画）

ダイナミックな室内遊びと外遊びと感性と…

○主な助成備品

避難車(お散歩カー)、滑り台、木製玩具、絵本

1. 保育計画策定の目的

当園は、平成 29 年 3 月 21 日より、川崎の認可外保育所として開園致しました。当時は園庭もなく、マンション 1 階のワンルームで保育を行ってまいりました。

認定保育園になった暁には、ここではできなかった“身体を思いっきり使うダイナミックな遊びを取り入れたい”と、常日頃より願っていました。

その後、紆余曲折ありながら、この平成 30 年 4 月 1 日より、川崎認定保育園として、新たにスタート致しました。

同年 7 月には移転を行いました。室内には、玩具の数がまだまだ足りず、避難車、お散歩カーもありませんでしたので、近くの公園での活動が主でした。

今年の令和 2 年 4 月 1 日より、小規模認可保育園へと移行が決定し、施設として子どもたちの成長に応じた遊びを提供する環境づくりにおいては引き続きの課題だと認識しております。

子どもの心身ともに健康な発育には、食と心の育みに加え、身体をダイナミックに使うことで、筋肉だけではなく精神や感性をも発達させることが大事だと考えております。

今回は御社との素晴らしいご縁により、よりダイナミックな遊びを提供でき、遊びの中から保育の質を高めていけると強く感じています。

2. 具体的な実施内容

《乳児室に室内大型遊具(滑り台)設置、成長への架け橋》

寝返り、腹ばい、ハイハイから徐々につかまり立ちをするなど、成長の著しい乳児の部屋に、大型遊具の設置をすることで、室内でもダイナミックな遊びを取り入れました。

近くにある公園は、対象年齢が大きく、遊具で遊ぶことができていません。室内に緩やかな滑り台があるだけで、子どもたちの活動は広がりました。

階段の上り下りはもちろん、頂上へ辿り着いた達成感、滑り台を滑るときのわくわく感。これらすべてを味わい、足腰がしっかりとしたとき、戸外にある滑り台へとステップアップできています。

室内遊びでの滑り台

つかまり立ち、伝い歩き中の0歳児



《避難車、お散歩カーで安全安心》

当園は、多摩川、鶴見川などの川に囲まれている地域にあります。

万が一、川が氾濫してしまった際には高い所へ避難しなくてはなりません。

しかし、子どもたちみんなが歩いて逃げられるというわけではありません。避難車があれば、座るタイプでしたら4人、立ち乗りでしたら6人が一度に乗ることができ、保育士が一人で操作することができます。

子どもたちの安全を確保し、素早く避難場所へ逃げるためには、避難車が必要でした。災害の時だけではなく、それ以外にも、お散歩へ出かける際にも使用できます。室内だけではどうしても体力が有り余ってしまう1歳児さんもお散歩先では、思いっきり遊ぶことができるようになりました。

0歳児用座るタイプ避難車



1歳児立ち乗り避難車



《絵本・木製玩具》落ち着いた空間でおままごとや絵本に触れ、人の気持ちのわかる子へ

室内では、思いっきり活動できるスペース、ゆったりとした活動を過ごし、楽しめるスペースがあります。

当園は、“グリーンを身近に”とコンセプトを掲げ、玩具も木のぬくもりを感じられる滑り台の他、おままごとや積み木、電車を購入致しました。温かな環境の中、保育士に絵本を読んでもらう嬉しさ、自分の好きな場面をめくって読む楽しさを、味わっています。

3. その成果と評価

年齢に合わせた滑り台を取り入れたことで、つかまり立ち、伝い歩きをするのに丁度良く、子どもたちの行動範囲、興味関心が目に見えるように変化がありました。

階段も足を上げやすい高さで登りやすく、頂上へ辿り着くと達成感を味わうことができました。

戸外遊びでも、滑り台を見つけると登ろうとしたり、指差しをして『したい!』と自分の気持ちを伝え、遊びにも積極的になりました。滑り降りる瞬間は、笑顔いっぱいの子どもたちです。

避難車を取り入れたことで、ほぼ全員がバギーに乗ることができました。

実際に避難する小学校へも避難訓練を実施し、保育士である私たちもイメージしやすく、子どもの安全を確保し、速やかに避難することができています。

4. 今後の課題と展望

絵本の読み聞かせでは、絵本の中の登場人物の気持ちに寄り添える、思いやりのある子を目指し、子ども一人ひとりの心の成長を共に喜び、温かい心を育てていきたいです。

保育計画にもあります、“ダイナミックな室内遊びと外遊びと感性と…”では、子どもの秘めている身体能力や、“一人でできる”という可能性を伸ばしていけるきっかけを職員一同見逃さないようにしていき、今後、小規模認可保育園として、連携園や地域の環境を把握し、子どもたちの活動能力を制限せずに、将来を担う子どもたちへの保育環境を考え取り組んでいきたいです。

電車遊び



絵本の読み聞かせ



以上